

CAMK スクリーニング Vol.1

山内光枝



山内光枝《つれ潮》2018 シングルチャンネル映像 熊本市現代美術館蔵

2024年2月28日（水）～3月31日（日）

会場：井手宣通記念ギャラリー

入場料： **無料** 開館時間： **10:00-20:00**（火曜休館）

主催：熊本市現代美術館（熊本市、公益財団法人熊本市美術文化振興財団）

国内外で活躍を続ける福岡在住の作家、山内光枝の中・長編映像作品のスクリーニング企画。

海辺にたたずむ裸の海女を写した一枚の古い写真との出会いをきっかけに、山内は十年以上にわたって海に生きる人々を追っています。

山内は素潜り漁を営む人々と生活をとおして関係を築きながら、カメラを握ってともに海へと潜っていきます。海を基点とした彼らの生活に全身を使って迫るなかで、属性や観念にとらわれる以前の、人間の根源的なあり方に触れようとしているのです。今回のスクリーニングでは、《つれ潮》と《信号波》という山内の近年の代表作2点を上映します。

つれ潮

「鐘崎の海で潜ってみたいね」と、対馬の東海岸・^{まがう}曲集落で、82歳で海女を営む「おばちゃん」がつぶやいた。

鐘崎とは、曲の海人のルーツといわれている福岡県宗像市の集落のこと。時代を超えた磯がえりを実現すべく、彼女は玄界灘を対岸へと渡る。海女に魅せられた山内自身も海に潜り、漁の様子を撮影しながらその旅に寄り添い、海に生きる女性たちの交流をまるごと描いた。

(制作：2018年 78分 熊本市現代美術館蔵)



上映スケジュール： ①10:05-11:23 ②12:00-13:18 ③14:00-15:18 ④16:00-17:18 ⑤18:00-19:18

信号波

自らの家族の歴史を見つめながら自身の存在を問い直す、作家のセルフドキュメンタリー作品。

海に生きる人々を追い続ける山内は、韓国の済州島の海女学校で素潜りの訓練を受け、釜山でのレジデンスも経験している。一方で、彼女の祖父母一家には、日本統治下の「フザン（釜山）」に植民者として約40年間住み生活した過去があった。

山内は本作において、親族が現在まで残っていた当時の記録や記憶に端緒を求めながら、家族が「フザン」で過ごした日々を掘り起こし、今を生きる自分自身と釜山の地との関係をひとつずつ確かめ直していく。



(制作：2020-2023年 31分 熊本市現代美術館蔵)

上映スケジュール： ①11:25-11:56 ②13:20-13:51 ③15:20-15:51 ④17:20-17:51 ⑤19:20-19:51

山内光枝 YAMAUCHI Terue

1982年生まれ、福岡県粕屋郡出身。同地在住。

近年の主な個展に、

2023年「同じ川に二度入ることはできない」Aesop 旧福岡店（福岡）

2024年「泡ひとつよりうまれきし」対馬博物館（対馬）〔予定〕 など

近年の主なグループ展に、

2020年「BUSAN: Point of View」F1963（釜山）

2021年「段々降りてゆく 九州の地に根を張る7組の表現者」熊本市現代美術館（熊本）

2022年「Spinning East Asia Series II: A Net (Dis)entangled」Centre for Heritage Arts & Textile: CHAT（香港）

〔全基善との共同プロジェクト〕

2023年「水のアジア」福岡アジア美術館（福岡） など

「CAMK スクリーニング」について

小展示室における映像作品上映のプログラムです。

長編の映像作品をゆっくりご覧いただく機会、あるいは特定作家の複数の作品をまとめたかたちでご覧いただく機会を設けるためのシリーズ企画として、新たにスタートしました。今後もさまざまな作家の作品をご紹介していきたいと考えていますので、どうぞご期待ください。